

2012 年 5 月 14 日

全国牛乳容器環境協議会会員 各位

全国牛乳容器環境協議会事務局

全国牛乳容器環境協議会(容環協)では、去る 4 月 11 日より 4 日間の日程で、容環協設立 20 周年記念事業の一環として大韓民国（韓国）を訪問し、生活ごみの処理場、再活用処理工程や乳加工施設などの視察により韓国の生活ごみ処理問題の現状把握に努めました。また、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会との協働による環の縁結びフォーラム（日韓乳加工産業環境経営政策情報交流会）へ参加してまいりました。

各視察訪問先の報告書は別途掲載いたしますが、今回参加された方々から視察訪問の感想を寄せていただいておりますので、ご報告いたします。

《容環協 20 周年記念事業第 3 回日韓フォーラム参加者からの感想》

出発日：2012 年 4 月 11 日（水） 成田発～釜山(金海国際空港)着

帰国日：2012 年 4 月 14 日（土） 釜山(金海国際空港)発～成田着

訪問先：大韓民国 釜山・慶州

参加者：17 名

第 3 回日韓乳業環境経営フォーラムへの出席を目的として、4 日間の韓国訪問に参加しました。

韓国の環境政策及び実態、フォーラムの充実と今後への期待と展望、韓国乳業工場（ソウル牛乳居昌工場）のレベルの高さは、特に印象深かった。3 回目でもあり、両国関係者の理解と見識が益々深まり、環境経営だけでなく乳業全体の交流と刺激に繋がる力を感じてきました。

また、慶州の史跡仏閣から、韓国の歴史や日本との深い係わり合いを実感しました。

韓国側の充実したアテンドと日本側関係者のご尽力に心より御礼を申し上げます。

（記：全国牛乳容器環境協議会会長 中畠賢治）

この度は、第 3 回日韓乳加工産業環境経営フォーラムに参加させて頂き、乳業会社・回収会社の見学や市場調査を通して、韓国の紙パックリサイクルの現状につきまして知識を深めることができました。またフォーラムご参加の皆様と交友を深める中で、現状の課題につきまして共有させて頂きました。心より感謝申し上げます。

（記：グリコ乳業株式会社 堀江長治）

この度は大韓民国にて乳加工産業環境経営フォーラムへの参加、リサイクルを取り巻く市場（回収会社、乳業会社、スーパー）視察という大変貴重な経験をさせて頂き、誠に有難うございました。

現在の大韓民国・日本において需要の高い「紙パック製品」を取り巻く環境を双方が協力して評価・行動することの重要性を強く感じました。

（記：グリコ乳業株式会社 楠瀬友洋）

制度は異なりますが、紙パックのリサイクルとしては日本と同じような感じがしました。やはり、関係者が消費者に啓発活動を行い、消費者自身が進んで分別しなければ回収率は上がらないような気がします。

韓国のようにすすぐだけで排出されると腐敗して悪臭の問題がつきまとうと思われるので、改めて日本の洗って・開いて・乾かしてのシステムが浸透していることは素晴らしいとだと実感しました。

（記：日本紙パック株式会社 江刺家敏）

個人的に海外は初体験だったため、非常に多くの経験をすることができました。

日韓フォーラムについては、前回（大阪）に引き続きの参加でしたが、今回「外国人」の立場となり、言葉や文字が通じない、通貨が円ではない、車道が右側通行、食事の習慣など、当然のことを体験してみて、大きなカルチャーショックを受けました。

文化が比較的近い韓国でこの状態ですから、改めて自分の無知さを痛感しました。

また、例えば日本の乳業では食品衛生法や乳等省令が基準・前提となりますが、韓国では独自の食品衛生法（食品医薬品庁）や、農産物品質管理法（農林水産部）に基づいた管理体系が構築されており、日本的な常識は通用しません。

現場主義という言葉がありますが、まさに百聞は一見に如かず。現地での実体験により、座学では得られない多くの知識・情報を得ることができた4日間でした。

（記：雪印メグミルク株式会社 伊藤忍）

高速道路のゴミ箱にも紙パックの区分があったり、古紙回収業者もある程度の安定した経営が得られる仕組みがあったりするなどリサイクルを進めやすい環境は整えられているように感じました。

今回は韓国の制度や取り組みをいくつか知ることが出来ましたが、回収の状況は複雑な要因が絡み合っていると思われ、正しく状況を理解するには、韓国の文化や歴史などの社会背景を深く知ることが必要であると感じました。

フォーラムにおいては、発表された韓国の関係者の皆様の環境への意識は非常に高く、見習うべき点が多いと感じました。

英語圏以上に言葉の壁の高さを感じましたが、今回築いた関係を今後更に発展させお互いの発展に繋がればと考えております。

（記：森永乳業株式会社 遠藤雅人）

今回、容環協の賛助会員という立場で参加させていただきました。フォーラムでは当社の取組みを発表するにあたり不安もありましたが、期待に胸膨らまず視察となりました。

紙パックリサイクルにおける日本と韓国との相違点を現地にて視察・体験をすることで、熟知することができました。

両国とも一長一短はありますが、まずは情報を共有化し良い点をお互いに模倣できるような環境が、今後の両国のリサイクル推進になるのではないかと考えます。

今後のリサイクル商品の普及、回収率の向上のためには、日本国内でのより一層の乳業メーカー様や、紙パックメーカー様との更なる情報共有化の必要性を感じました。

(記：株式会社日誠産業 亀谷寿長)

日韓フォーラムも第3回を迎えて、顔見知りの輪が拡大し、「同志」という意識で、建前では無く本音で交流できるようになったことが喜ばしい。日本語を話せる方々と個人用のメールアドレスを交わして日本に居ながら日韓の交流ができるまでになりました。環境経営では一步先を進んでいる韓国の取り組みを学んでいきたいと思いました。

(記：一般社団法人日本乳業協会 谷口一人)

日韓フォーラムにおきましては容環協、パック連、そして韓国のサポートまでして頂きました各位その他関わる全ての方々に心より感謝申し上げます。

韓国のリサイクル事情については、関係団体等々の事前のレポートにあった様にまだまだこれからのが正直ありました。

最新のリサイクル設備と旧式の設備とが同居している。また、汚水を生のまま河川放流していたり、かたやソウル牛乳の最新の污水处理場の様に将来へ向けての環境投資があったりのアンバランスを感じました。

社会的な認知度やリサイクル業界の事情と環境保全に対する基準等の考え方進め方、インフラとのギャップ？拡大事業者責任におけるリサイクル事情？それらが《まだまだこれから感》を増幅したのかもしれませんが。但し、政界官僚経済界が大きな流れを手に携え進めているとの事を生の声として聞き、肌で感じ、国民性の違いで片付けていては日本のリードも直ぐに埋まるのではと感じました。

もうひとつには、「もったいない!!」我々が紙パックのリサイクルを始めた頃の 熱い気持ちを思い返せました。「原点回帰!!」 堅くなった頭を解す良い機会になりました！

(記：株式会社山田洋治商店 山本信之)

日韓乳加工産業の環境に関する交流は回を追うごとに規模も内容も充実し、今回のフォーラムには韓国からは行政、乳業会社、リサイクル企業等から多数の参加がありました。

両国のリサイクルに関する様々な事例紹介があり、興味深く聞くことができました。双方、優れた点を率直に学ぶことが重要だと考えます。

(記：株式会社明治 福原文彦)

今回、日韓フォーラムに参加させていただきまして、本当にありがとうございました。
小職は韓国が初めてで、他国の紙パック回収の現状や、ゴミ問題に付いて視察が出来て、大変勉強になりました。

特に、牛乳パック回収は、韓国でも積極的に取り組み、確実に成果を上げていることに感銘を受けました。また、補助金があることにも驚かされ、今後の古紙の扱いにどのように変化して、活動していくのが楽しみです。

次に、ソウル牛乳工場を見学した時は、思っていたよりきれいで、最新の機械が入っていることに驚かされました。その中でも、冷蔵庫設備については、全自動化を進めており、日本での冷蔵庫作業に違いを感じました。

次に訪れた、スーパーマーケットに於いては、日本とほとんど変わりはなく、普通に買い物が出来ましたが、牛乳がいろいろなペットボトルに入っているのは、あまり見ない光景でした。

それから、今回のテーマであります、日韓のフォーラムについては、韓国の牛乳パック回収についての熱い思いを見ることができました。高速道路での牛乳パック回収や、規模は小さいが再利用を考え、牛乳パックの回収率を上げている関係団体に敬意を表します。今回の参加をきっかけに、自工場ではなにが出来るのかを模索しながら、今後の活動に生かして参ります。

また、日韓の親睦が今後も永遠に続きますことを期待し、今後も環境問題に取り組んで行きたいと考えます。

(記：四国明治乳業株式会社 藤井正敏)

大韓民国（韓国）へは初めての訪問地であり、季節的にも日本と同様に満開の桜に迎えられました。

現地では家庭ごみ再活用処理工場、製紙工場、乳加工工場などの施設を視察し、そのゴミの多さや分別への人的労力の投入状況などに驚かされました。

また、日韓乳業産業グリーン政策情報交流会では、通訳は入るも言葉の壁で十分な情報交流が出来たのか、報告者の一人として力不足を感じせざるを得ませんでした。

移動の合間、市場（スーパー）視察では販売物品も多種多量で、エコロジー商品も多くみられましたが、飲料用紙容器を扱っている者として、ペットボトル製品が商品棚下段を多く占めていたのが印象的でした。

(記：全国牛乳容器環境協議会事務局長 佐藤章)

以上